

地域おこし協力隊受入れ経費について

令和4年3月 西区 河内まちづくりセンター

1 目 的

本市の中でも特に人口減少・少子高齢化の進行が顕著な河内・芳野地区において「地域おこし協力隊」を活用することにより、地域の課題解決や活性化を図り、当該地域の魅力を発信した移住・定住の促進に繋げていく。

2 概 要

1)制度

本年度に創設された「地域おこし協力隊インターン」制度を活用

2)配置隊員数

2名の配置を予定(河内地区1名、芳野地区1名)

3)配置期間

2ヶ月間の配置を予定

4)活動内容

- ・先行移住者及び地域との交流を通した移住・定住促進策の検討、提案
- ・地域産品や観光資源の情報収集・発信、PR
- ・空き家の調査、活用策の検討、提案

等の地域協力活動を想定

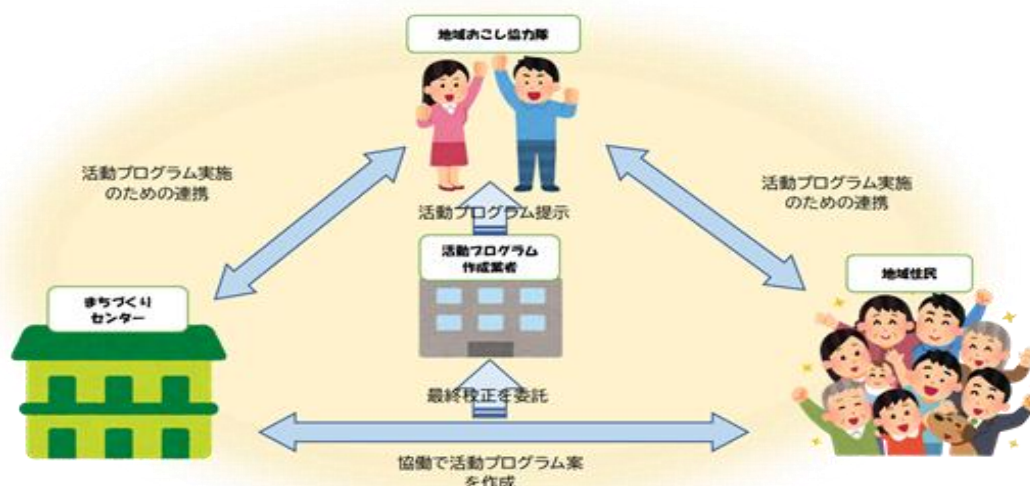
5)予算措置

2,040 千円

6)今後の展開

○インターン制度を活用することにより、地域の方々にとって、地域おこし協力隊、さらには移住・定住の促進に対して考えるきっかけ作りの場とするとともに、意識の醸成を図っていく。

○インターン制度の実施結果を踏まえた検証を行い、令和5年度においては、次のステップとして「地域おこし協力隊」本体の活用を検討していく。



【参考1】地域おこし協力隊制度について

総務省資料

地域おこし協力隊インターン←NEW！		
おためし地域おこし協力隊	★期間	★移住要件
	・2週間～3か月	・なし
	★活動内容	
	・地域おこし協力隊と同様の地域協力活動に従事	
	★財政措置（特別交付税措置）	
	・インターンのプログラム作成等に要する経費： 1団体あたり100万円上限	
	・協力隊インターン参加者の活動に要する経費： 1人・1日あたり1.2万円上限	
	⇒地方への移住に淡い関心を寄せる方や地域おこし協力隊をあまり知らない方へアピール！ ⇒地域おこし協力隊への参加を具体的なイメージをもって検討することが可能に！	
地域おこし協力隊	★期間	
	・1年～3年	
	★移住要件	
	・原則、都市地域から条件不利地域への移住が必要	
	★活動内容（例）	
	・地場産品の開発・販売等地域おこし支援	
	・農林水産業への従事	
	・住民の生活支援 等	
	★財政措置（特別交付税措置）	
	・募集経費：1団体あたり200万円上限	
	・活動経費等：1人あたり470万円上限	

【参考2】地域おこし協力隊の隊員数等について

○令和2年度の隊員数は全国で5,560人(全国1,065自治体)

○指定都市では、これまで仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、京都市、岡山市、広島市の7都市で活動実績あり。

○令和2年3月現在で、隊員の約4割は女性、隊員の約7割が20歳代、30歳代
任期終了後、約6割が同じ地域に居住しており、移住・定住の促進に繋がっている。

【参考3】地域おこし協力隊の事例

総務省資料

島根県雲南市 40代女性 起業 【定住状況】 ・任期終了した4名の隊員のうち3名が定住。（平成29年7月1日時点） 【活動内容】 ・隊員期間中は小学校が閉校した地域に入り、地域づくりに携わっていた。 ・任期終了後、農地付き空家を購入し、農村民泊やカフェをしている。また、専門性を活かして、小中学校でのダンス授業や、幅広い世代への体づくりのワークショップや施術を行なうほか、ラジオで地域情報番組のパーソナリティをする等している。 【ポイント】 ・元々の専門である体づくりの仕事と、協力隊の経験を活かした仕事を組み合わせた「多業」。 	新潟県十日町市 30代男性 就業 【定住状況】 ・任期終了した40名の隊員のうち27名が定住。（平成29年8月1日時点） 【活動内容】 ・任期活動中は、地場農産物の地産地消活動、出張販売、春夏秋冬体験アクティビティの開発、支援世帯の病院送迎、除雪などに取り組んでいた。 ・任期終了後は、里山体験に特化した法人を立ち上げ、自身もガイドとして、様々な里山体験ツアーなどを開催している。 【ポイント】 ・任期中の隊員活動の実績を元にした、活動地での起業と就業。 
岡山県美作市 20代男性 就農 【定住状況】 ・任期終了した17名の隊員のうち12名が定住。（平成29年6月1日時点） 【活動内容】 ・任期期間中は、棚田の再生が活動の軸となり、再生した棚田で農業や、周辺の森林資源を活かした林業を行う。また古民家を利用したコミュニティスペースづくりやイベントへの参加・協力・企画などの活動に取り組んでいた。 ・任期終了後は、再生した棚田での米作りやにんにくなど農作物の生産を行いながら広葉樹施業、シイタケの原木栽培なども行っている。 【ポイント】 ・過疎化で衰退してしまった棚田での米作りを再生した。 	鳥取県八頭町 20代女性 就業 【定住状況】 ・任期終了した6名の隊員のうち4名が定住。（平成29年7月1日時点） 【活動内容】 ・任期活動中は、志子部集落で特産品の開発や交流体験事業の企画提案を行っていた。また地域の特産品を売る販路づくりなどを通して、地域のPR活動を行っていた。 ・任期終了後はきのこの研究機関にコーディネーターとして就業。広報や企画の仕事を通じてキノコの美味しさや魅力を発信している。 【ポイント】 ・地元の人から信頼を得て、活動を行っていた地で就業。 